

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国語

1 出題のねらい

「書くこと」、「読むこと」の2領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕について、基礎的・基本的な知識・理解と、国語を適切に表現し正確に理解する力をみることをねらいとした。

- (1) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容をとらえたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、文章の展開に即して内容を正確に理解する力をみるものとした。
- (3) 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、漢字の読み書き、書写、表現の技法、文法の基礎的な事項や古文の仮名遣いなどについての力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は22.6点で、昨年度より2.2点上がった。言葉の特徴やきまり、漢字等における基礎的事項の定着や、社会生活において必要な語彙の習熟が十分とは言えない。また、一定の分量の文章を展開に即して、対比の関係などに着目しながら内容を整理して正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
平均点	22.6	20.4	22.6	20.4	22.6	25.1	20.2

(2) 正答率の推移

年度	R 3	R 2	H31	H30	H29	H28	H27
言葉の特徴やきまり・漢字・書写・表現の技法	56.6	49.9	56.9	53.5	55.9	71.8	54.0
現代文	24.1	26.4	34.4	23.8	31.4	30.2	26.7
古典	44.4	44.6	44.2	38.8	40.3	57.0	45.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞① 基本的な文法事項に関する知識を定着させること。【一(五)1, 2】

言葉の単位（単語に区切ること）や単語の活用（動詞の活用）など、言葉の特徴やきまりに関する事項の正答率が低い。言葉への自覚を高め、言語感覚を豊かにするためには、基本的な文法事項に関する知識を身に付けておくことが重要な要素の一つとなる。既習事項を繰り返し学習の中に取り入れ、確実に定着させたい。

☞② 社会生活において必要な語彙の意味や使い方に習熟させること。【二(一)】

文章中の言葉を用いて空欄補充をする問題における正答率が低い。誤答の約5割を占めていた「自律」は、文章中におけるキーワードではあるものの、空欄の後に続く「の所在」という表現とはつながり難い。授業の中で、社会生活に必要な語彙がどのような使われ方をするのか、文脈に合った言葉の選び方や使い方も意識させたい。

☞③ 対比の関係などに着目しながら文章の内容を読み取る姿勢を身に付けさせること。【三(二)】

文章中で提示された二通りの「読み方」を整理して読み取り、問題の条件に合わせて、肯定的に捉えられている方の「読み方」を正しく記述できている解答が少ない。説明的文章では、二つのものを対比して取り上げているものが多い。文章の展開に即して、対比の関係などに着目しながら内容を整理して正確に読み取る姿勢を身に付けさせたい。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
一	(一)	1	れいこう	18.6	76.5	4.9
		2	もよお(す)	59.7	36.4	3.9
	(二)	1	痛快	45.7	39.8	14.5
		2	預(ける)	61.0	33.8	5.2
	(三)	13(画)	81.4	18.3	0.3	
	(四)	ア	72.4	27.6	0	
	(五)	1	4	25.6	74.4	0
		2	イ	32.6	67.4	0
		3	ア	79.6	20.1	0.3
	(六)	1	エ	87.3	12.7	0
2		(例) 体育祭ではその成果を発揮した。	60.7	27.9	4.4	
			部分点 7.0			
3	Ｃ	54.8	45.2	0		
二	(一)	責任	10.8	87.9	1.3	
	(二)	エ	70.5	29.5	0	
	(三)	(例) 彼女の発言によって、私たち日本人にとっては当たり前であった相互依存が、「相互依存を許してやる能力」という価値があるものだという事に気づかされたから。	4.4	61.0	3.3	
			部分点 31.3			
(四)	ウ	51.4	47.6	1.0		
三	(一)	(例) 今の社会は情報量が増えどんどん上書きされているために、人々は最新の情報しか見えなくなっているが、一方で忘れるからこそ新しい情報を受け取れるとも言えるということ。	3.4	63.3	3.9	
			部分点 29.4			
(二)	(例) 岡本さんは、じっくり読む読み方を肯定している。岡本さんは中身の深い本は何回読んでも新たな発見があると述べているが、私の読書の経験でも同じことがあったので、私もじっくり読むことを大切にしたいと思う。	3.9	59.7	13.2		
		部分点 23.2				
四	(一)	わきまえぬやからは	62.8	35.4	1.8	
	(二)	イ	53.2	46.3	0.5	
	(三)	息	19.6	77.3	3.1	
	(四)	ウ	41.9	57.9	0.2	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した387人分の答案を対象として算出した。